

いつかそんなやうな事が心にはいつてしまつたのでございませうが、この一時の出来心のやうなあらはれを以て、この子は醫者に適してゐるかどうか等といふ事はわからないのでございます。たゞ將來醫師に適するやうでしたら、さうしたいと思ひます。

私共は、もと名古屋に居りましたのでございます

見たまゝ

六つ位の女の子をかしらに四つ位の男の子と母さんの背に負はれた三つ位の女の子が雨のしどろ／＼と降る九月の或る日、院線に乗り込みました。車中の一人は、すぐこのお母さんに席をゆづりました。背の女の子は腰掛のところに立ちました。上の二人も割り込む様にして狭い席に立つて窓外をながめておりました。その中に一番末の子がお母さんにしきりに何やらねだつておりましたが母さんは、風呂敷包の中から大きなバナナを、しかもまだ青いところのあるのを一本、そのまゝ與へました。上の二人はこの時、すぐふりむいて欲しさうにしましたが、母さんの權幕にあきらめて、また窓の外を見つゞけました。それでも時々横目で妹の口元をにらんでゐるのでした。

バナナを手にした女の子は、いきなりその皮をなめ始めました。端から端まで。母さんはだまつておりました。何か考へごどもしてゐるかの様に。その中一方の端から皮のまゝかちつておりましたが思ふ様にたべられないので母さんにむいてくれと云ひました。母さんはむきました。それもすつかり皮をどつてやるでもなく、皮と肉との間にある纖維もそのまゝにして渡しました。見る間にバナナは喰べられてしまひました。皮の内面まで齒のあとがたてられて。この子はこれがすむと母さんの懷をさがしました。足をばた／＼させて隣席の乗客の胸の邊をうちながら乳房をなぶつておりましたが、それも倦きると母さんの手にある蝙蝠傘の柄をしやぶりはじめました。雨水と手垢でよごれたのを、やがて降車驛近くになるとこの子は無理に母さんの背のせられておぶひ紐で結ばれました。いやだといつてちれておりましたが母さんはだまつて、つよく左右にゆすつておました。電車がどまつた時二人の兄弟は、めい／＼ぬぎすてゝあつた足駄をはいて傘をもつて母さんのあとについでゆきました。その時姉さんの方が先に末の子のすてゝあつた皮を見つけて弟に示しました。弟は手にどつて食べる處が残つてゐないかとみておりました。母さんも三人の子も相當な服装をしてお

ました。(丁子)

が、私共の知合の醫師の方でお庭に見事に柿がなつて居りますので、ある秋御女中さんがお子さんの望むにまかせてさし上げたら一晩の中に死んでしまつたのを存じて居ります。子供をもつ親は、かううしたわづかの出来事の爲にとりかへしのつかぬ事をせぬやうに注意したいものでございます。